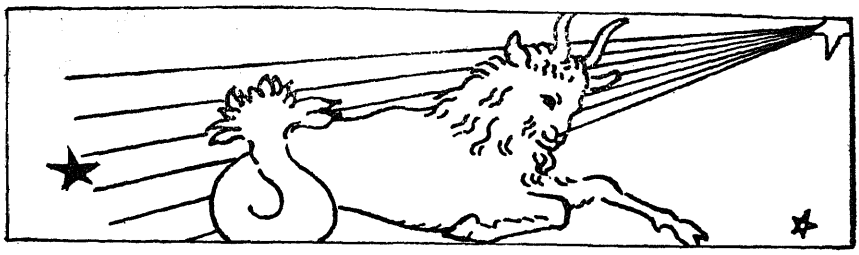
幼兒之教育

第四十三卷　十二月號　第十二號

東京女子高等師範學校內

日本幼稚園協會



第四十三卷　幼兒の教育　第十二號

(目　次)

明治天皇御製謹誦……倉橋惣三(一)
戰時下保育の本義と實際……倉橋惣三(二)
戰時下の觀察部について(一)……有元石太郎(一〇)
夕やけこやけ……戸倉ハル(八)
觀察遊び二つ三つ……清水光子(一三)
戰爭に取材せるお話について……附屬幼稚園談話研究部員(一五)
東京都戰時託兒所を訪ねて……菊池ふじの(一八)
この頃作つた童話と童謠……吉井正子(二〇)

保育奉公

大東亞戰爭必勝完遂

明治天皇御製

教育

國のため力つくさむわらはべを教ふる道にこゝろたゆむな

教育はいろ〳〵のこゝろから行はれる。教育の對象たる兒童に就ての觀方、すなはち兒童觀も人さま〴〵である。しかもわが國の教育の本旨、わが國の兒童觀の本領、いづれも一つにしてまざりなく、まごひない。兒童とは長じて國のために力つくさむとしてゐるものである。教育とは兒童をして國のために力つくし得るやう教ふる道である。この教育の要旨を今日、皇國の道に則る國民錬成といふ。畏くも 明治天皇は、三十五年の昔此の御製において、此の兒童觀と教育本旨とを、いとも〻ら〳〵と御示し下されてある。しかし、その貴いわらはべを教ふる道にこゝろたゆむなと諭し給うてある。そのわらはべの教育を任とせるわれらへの御製である。

明治三十七年、あの大きい戰のはじめの年の御製

ことしげき世にはあれども國民を教ふる道に心たゆむな

は、如何に多事の最中と雖も教育といふことのゆるがせにしてならぬことを世に教へ給うたのである。或は、さうなり易き世を戒め給うたのである。その年から越えて四とせ、更に皇國教育の本義を以て、實際教育者に諭し給うたのである。

今や皇國未曾有の大戰爭に際して多事無限、われら亦思ひ靜かなり難し。敵を擊つことに急にして、幼兒の如き顧るに暇なからんとせざるにあらず。この時舊來の兒童觀の加き一顧の價値なからんとさへする。たゞ、國のため力つくさむわらはべなることを思ふ時、われらの心一刻のゆるみを許されないのである。

この有り難き御製の謹誦を以て今年間の卷頭の筆を擱く。恐懼言葉を知らない。

（倉橋惣三謹誦）

戰時保育の本義と實際

——昭和十八年八月戰時保育講習會講義筆記——

倉橋惣三

目次

一　戰時保育の意義
二　戰時保育の重要性
三　戰時保育の問題
(一)保育の目的方面に就て
(二)保育の方法方面に就て
(三)保育の內容方面に就て
四　戰爭それ自身の取入れ
五　戰時生活の取入れ

第三日—八月四日

四、戰爭それ自身の取入れ

これまで戰時保育として特別に考へる必要のある事をいろ〳〵と辿つて來たのであります。即ち保育目的に關する方で、どういふ事を考へるか、保育方法に關する方でどういふ事を考へるかの順序で一應申したのだが、次に全く問題を新たにして今日の戰時それ自身が保育とどういふ關係を持つてくるか、この點を考へたいのであります。戰時保育とは戰時目的に保育目的を合致させる事であると考へたのでありますが、更に具體的、實際的に戰爭が保育にどういふ影響を持つてくるか、問題は積極的と消極的とあります。一は戰爭が保育に及ぼす積極的影響であります。この中にいろ〳〵ありますが、第一に戰それ自身を保育の中にどうもつてくるかであります。保育の中に戰をとり入れる事であります。この點に關しては教育すべて、幼稚園教育もその一として時世の動き、社會の變動を教育の中にとり入れてくるのは當り前であります。國民學校に於ても行事をとり入れることがすゝめられてゐます。たゞ問題は、幼稚園は子供の年齡、興味が限られてゐるので、他の學校ほど嚴密、敏感でない趣があります。例へば本年の日本の大

きな問題は米がよく出來るかごうかといふ事であります。只今の天候では大變よい出來でありますが、かういふ事は國民學校以上なら隨時子供に傳へなければならない事であります。農村は勿論、都市の學校においても子供に傳へられるべきことであります。即ちその時々の國の出來事は教育の中に生きた教材として入れられる事はあたりまへのことであります。幼稚園では米の話は一寸不向きであります。お辨當の時に言つたつて「何もよくわからん、今喰べてゐるじやないか」(笑)といふのでありませう。かういふ風に限定されてゐますが、しかし國のしてゐる戰爭については、はつきり持つて來なければなりません。南の島の地理も、戰爭目的も幼兒には話したつてわかるまい、で超然としてゐてはなりません。戰爭を生のまゝとり入れるべきであります。

更に、今日はもうないと思ひますが、中には戰爭といふ、血の流れる事件は幼兒には不向きであると考へる考へ方であります。戰は幼兒の保育にはとり入れない方がよいといふ所謂平和主義的、國際主義的、人道主義的とかの教育である。しかし今日本のしてゐる戰爭それ自身を幼兒の眼や耳からはなしておくといふ事は今日では許せない。今日なほ、何となくあの優しき保育に戰を不向きと考へられる向があれば私は之を斷乎反對致します。戰爭は勿論人を殺すことであります。人道的にみればあまりに幼兒にとつては烈しいでありませう。しかし今日の戰は一人の人が相手を殺すといふのではない、國と國とがぶつかつてゐてしかも陛下の御命令によつて戰が行はれてゐるのであります。このことは何の斟酌もなく十分に幼兒に傳へるべきであります。その事の當然なる理由を積極的に信ずるのであります。

戰は日々行はれてゐます。それをそのまゝ幼兒に傳へたい、保育室にラヂオを具へてその時々大本營發表をきくなり新聞を切拔いてはるなり、それを幼兒に語つてやるなりすべきであります。昨日の海戰の發表、昨日私は皆さんいろ〳〵の世界情勢を申したのですが、丁度その一日はレンドバ港において皇軍が一日の中、曉、晝、夜と三度の大空襲を試みて大戰果をあげてゐるのであります。これは午後三時五十分の發表でありまして、私は殘念ながら聞き落しました。實は講習中皆さんにもその時々の報道をおきかせすべき計畫であつたのですが、その事も出來ないでしまひました。そこで、今朝の新聞に出てゐるとすれば、もし今日保育が開かれてゐるとすれば、この報道をそのまゝ幼兒に傳ふべきであります。今日、地圖のかけてない幼稚園はないことゝ思ひますから、その地圖を指して、こゝでこの話すのであります。そこでは擊墜、擊破、炎上と實に非常な事が行はれたのであります。それをそのまゝ話せばよい。

自爆何機といふところまで話すのであります。今日は親が何處かで戰爭の報道をきいたなら家に歸つてすぐ子供にそれを話してやる。子供が出先きで聞いたなら家に歸つて、御承知ですか、と親に話すべきであります。先生が子供に話してきかせるのも當然であります。判る判らないではない、事實なのであります。昨日のレンドバの戰果は、敵の反攻に對する迎へ討でなく積極的なのであります。實に鬪志滿々であります。この事を幼稚園で是非傳へて下さいと私はいひます。その日の保育案がどうでありませうと、直ちに傳ふべきであります。たゞ問題は、これはどこまでも事實であります。子供にはその感激を傳へればよいのでありますが、空(クウ)では傳へられませんから事實をそのまゝ示すのであります。もしこの朝の新聞を讀んで幼兒に傳へうる感激を持たずに子供に會へる人があれば、その人は、戰時下の保姆とはいへないのであります。個人的な感激でも子供に接する先生の顏色は變ります。まして國家の感激を何等とり得ないのでは、戰時保育ではありません。しかもこの感激を皆さんは非常な感激で受けうるのでありますが、幼兒はそれはわからないのであります。

そこでこの感激の持つて行きどころが問題であります。その感激を幼兒にそのまゝ傳へて、だから皆しつかりなさい、といふのも一の結論でありますが、これは幼稚園ではどうかと思ひます。大きくなつて云々、といふのも實はよくわかりません。來年海鷲に志願出來る少年達なら、そこへもつてゆけるのでありますが、――この感激のもつてゆきどころは、はつきり二であります。何故こんなに勝ち得るのか、それは戰つて下さる兵隊さん――子供達はさうよびます――への感謝の感激であります。又それは御稜威のおかげでありますから、もう一つの感激はこゝに來るのであります。この二の結論を以て傳へることは幼兒に對しても出來る事であります。これ即ち戰時保育の粹であり、中核であると思ふのであります。御稜威への感激、國の爲に働く人への感謝を、戰時なればこそ子供にかう傳へうるのであります。日本の幼兒がこの大戰爭の間に、あなたの保育を受けてゐる事は子供の幸福であり、あなたの幸福であらねばなりません。

幼稚園に戰爭をとりいれまいとする考へ違ひの人はないと思ひますが、尙注意したいのは、あまりにもこの感激が連日續く爲に、その時、その時の新鮮潑剌な感激を以て子供に傳へることが出來ないかもしれぬといふことであります。

五、戰時生活の取入れ

更にやゝ間接的になりますが、今日幼兒の家庭、幼稚園

をさりまく社會がこゝごゝく戰時生活なのであります。幼稚園にくる途中において白衣の勇士にあひ、赤襷の人にあひ、節約せる風俗の人を見、國の爲に徵用に赴く勤勞者を見るのであります。この事實が子供に國を愛する心、國の爲に働く心、國の爲に節約する心を養ふのであります。この事に幼稚園は超然としてゐるべきではありません。見た通りそのまゝ子供にそれをさせるのではありませんが、萬一、先生が子供たちの感激を薄めてしまふ事があつてはなりません。先生が短い鉛筆を出して使つてゐる。これは今日は節約の倫理でなく國の爲なのであります。幼稚園の花園を野菜畠にかへたことも單なる農耕ではなく、國に結びついてゐるのであります。私は幼稚園の先生の服裝について重大な問題を考へます。皆さんの服裝はどうなさらうと皆さんの勝手でありますが、幼稚園では先生の服裝を通して服裝の教育をしてゐるのであります。先生が美はしの花守(笑)以外一歩も出なければ子供は何と思ふでありませうか。教育とは戰爭に副はざるものなりと思ひます。これは一つしつかりお考へ願ひます。戰時幼稚園はこの社會の緊張せる生活ぶりをそのまゝ反映せねばならないのであります。

次に此の積極的影響とならべて消極的影響を考へませう。戰爭は悉く積極的で、戰爭に關する限り消極的なものはありません。物資が不足すれば、それ丈戰爭の方へ使つてゐるからといふ積極であります。我々が我慢して耐へてゆくのも同樣に積極であります。こゝに消極といふ言葉は子供に及ぼす關係においていふのであります。子供の榮養は必ず今日低下してゐるでありませう。我々の榮養低下は積極的に意味づけられますが、子供のにそれはどうでありませうか。それについて私の喜びにたへない事は、此の戰下に出產率の向上、乳幼兒死亡の低下といふことであります。しかも今日、それらについての物的條件は何等よくはないのであります。戰はこゝまで缺乏を積極化してゐるのであります。遊んでゐる母の子は少數で、十分に榮養を與へてゐた子の死亡は多かつたのに、今日はこの狀態を示してゐるのであります。しかしこの生れる子供が、母乳で育つ乳兒期においては死亡率は減つたが、普通の食物をたべる幼兒期に於て榮養問題は消極的であります。これについて幼稚園は深く考へなければなりません。子供の榮養狀態を絕えず檢診して、家庭と連絡をとり、よくしてゆく事が必要であります。更に物自身の他に、子供をとりかこんでゐる空氣の荒い事であります。又戰の報道も御稜威と兵隊さんへの感謝を以て語ればよいのでありますが、戰はかうだ、大變だぞといふ事は子供の神經を疲れさせます。この消積的な影響に對して、戰時幼稚園の任務は、どうするか

といひますと、之を補つてあまりある皆さんの心持に俟つのであります。皆さんの心持から與へる優しみ、うるほひ、慰めは非常な要求をされてゐます。平時にはにこ〳〵顔は他にもあつたのです。皆さんは戰時下において戰に直接なる荒い仕事を何もしないで保育をしてゐるのではありません。他の人は荒い仕事に追はれてゐて、にこにこしたくても出來ない人もありませう。しかれば常以上にうるほひを與へるのは皆さんだけの仕事といつてよいのであります。皆さんはたゞ子供を預つてゐるのではない、戰爭の中の子供のうるほひ者としてのあなた方があるのであります。私共は戰の報道を子供達に傳へた後で、もつとびつくりしろとゆり動かすわけではありません(笑)その後は更ににこやかに、和やかに保育が行はれねばなりません。これが始めに申した戰時下における幼兒の心をぢつともつてゐてやる保育者の問題であります。戰時下は物の足りなさ、子供への心の足りなさをお互何とか補つてゐるのでありますが、

この他に、幼稚園は何といつても物を使ふ教育であるといふ事があります。言葉による事が少い故に物によつてゆくのが特色でありますが、その物が減つてゐる、肝心な道具が足りないのであります。かうものがなくなつては保育は出來ないといふ人があるかもしれない程に、保育用品が缺乏してゐるのであります。すると今日程幼稚園の先生が保育用品について工夫を要する時はないといへます。昔は手技に古葉書を使ふ事も數年前までは美しい儉約であつたのでありますが、今日は紙がないのであります。その意味で國民全體が乏しきに耐へやりくりしてゐるのであります。國はそれでよいとしてゐるのではありませんが——我々の側からすれば國が何とかしてくれるのを待つてはゐられないのであります。何といつても戰爭中には、あの幼兒を相手にしてそんなに無條件的に思ふ存分のことは出來ませんが、平時では到底出來ない感謝感激が保育を力づけてくれるのが一、二には皆さんの子供に對する愛情が戰時保育をしてくれることであります。今日は子供が尙いぢらしい時であります。物はないが、工夫が戰時保育をしてくれます。この事を以て戰時保育の問題についての話を終りますが、戰爭はあなたを通しては積極的保育をなしうるといふ事をはつきりと申し上げるのであります。

附言

次に私の演說の豫告に幼兒保育者指導の要諦といふ問題がついてゐました。この問題は今迄の問題と別でありますが、時間がありませんのでこれについて何を皆さんに申し上げやうとしたかだけを申します。戰時保育の必要は保育專門家が痛感するだけでなく、今日國全體がそれを感じてゐるのであります。一例をあげ

れば、農繁期託兒所の必要の一層認められた事、隣組活動の中に幼兒保育がとりあげられてゐること、大日本婦人會、大政翼贊會もまた之をとりあげてゐる事、更にこの夏は、幼兒を公園に集めて保育することが非常に行はれてゐる事などであります。今日此處へ來る途中、その世話をしてゐる人にあつていろ〳〵話したのですが、六十校の女學生がこれにあたり、到る處の公園に開かれてゐるのであります。幼稚園、保育所といふ專門的なところでする以外、到る處で行はれてゐるのであります。又あはせて、今日改正されました學制の中で師範學校は幼兒教育實習を重んじ、實習期十二週の中の二週を附屬幼稚園或は代用附屬幼稚園において實習すべしと示されてゐます。高等女學校では家政科家政の中に幼稚園託兒所で保育の實習をすべしとあり、育兒についても同樣であります。私は實に保育が國中に溢れてゐるやうに思ふのであります。その時に、誰がその任にあたるかであります。師範生に實習させるには幼稚園の先生がこの指導にあたるのであります。この指導者が澤山要るのであります。女學生の場合も亦同樣、更に社會的のこの仕事には素人があたるのであります。是等の指導には幼稚園、保育所の先生以外に指導者はゐません。是等の方々が幼稚園、保育所から一歩出て指導しなければならないところに、擴張されてゐる國の保育運動に參加されて隣組の母、娘達を指導するのは皆さんの他にない、國の保育に參加する皆さんとしてのお仕事がふえたのであります。專門家としてお立ちになつてゐる皆さんの雙肩にかゝつてゐる任務なのであります。これを以て講義を終ります。（完）

○大東亞戰爭が始まつて正に二ケ年。戰線はいま最も苛烈を極めてゐる。我皇軍の善謀勇戰は寡兵よく敵の大軍を屠り、到る處輝く戰果を擧げて一億國民を感激にひたらせてくれてゐる。併し、その戰爭の詳報を聞く度に、我が軍は常に、兵に於ても武器に於ても敵の何分の一の劣勢に當つてゐるのである。この點、國民として實に前線の將兵に對してお申譯ない限りである。今國内はこれ等武器の增產に、總員戰鬪配置についてゐる。われ等も亦この意氣で、來る年も吾等の職域に御奉公致し度いと思ふ。

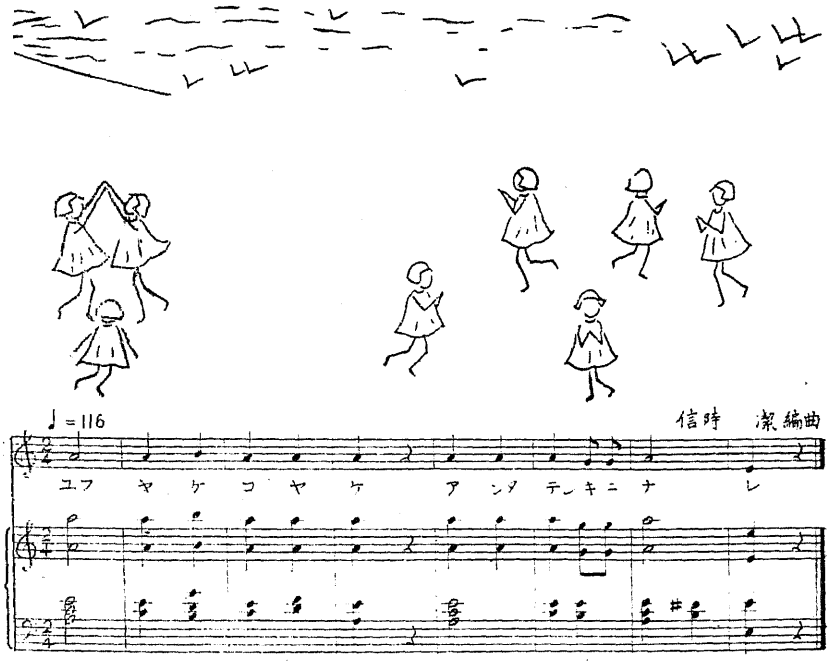
○十一月本誌に掲載してある日本幼兒飛行機獻納貯金の提唱は至る所同感共鳴を得、早くも御送金下さつた幼兒の幼稚園もある。當附屬幼稚園でも十一月に引き續いて、十一月の二月貯金を實行し、保姆も參加して、〆切の二月末までには相當の額にし度いと意氣込んでゐる。どうか各園に於かれても是非お知り合ひの幼稚園、又は父兄をもお誘ひになられて、出來るだけの多額にして獻納して頂き度い。御協力を切に切に希望する次第である。

◎振替貯金にて御送金の方へ

「幼兒の教育」十一月號にて申上げました通り、十一月一日より振替料金の改正に伴ひ、振替貯金にて會費其他を御送金の方は振替料金拾錢を御加算の上御送金下さいますやう御願ひいたしました。

就きましては此振替料金を御加算なしに御送金になりました方には其御送金の中より振替料金拾錢を差引きます、右御諒承下さい。

日本幼稚園協會係り



夕やけこやけ

東京女子高等師範學校教授
戸倉　ハル

準備

廣く間隔を取つて任意に並ばせる

動作

ゆふやけこやけ

拍手しながら　駈足で任意の方向へ進み　誰かと向ひ合ふ

あしたてんきになれ

兩手をとりあつて　駈足足踏で背中合せに其の連手をくぐる

以上の動作を繰返して行ふ取扱の方法

赤い夕燒空も次第にうすれていく頃、家路さして歌ひ歸る子供等の聲が響いてくる。

ユーヤケ　コヤケー
　　アーシタ　テンキニナアーレ

遊びつかれず　遊びあきず「マタ　アシタ」と約束する歌聲は、小波のやうにあとからあとから押寄せてくる。そしてやがてはその聲も塒に歸る鳥と一緒に、そこ、ここの家々に消えていく。

かうした情景とこの心とをピアノに表はして指導したいと思ふ

先づ　音に合せてくりかへし、くりかへし行はせる。

次第に音の强弱をそのまま動作に移して遠近を表現させてみる。卽ちオクターヴの力强い音で奏する時には、子供等は駈足も大きく、歌聲も拍手を元氣に生き生きと動作し、次に音を弱め、やがては旋律を一音で微かに奏する時には、歌聲も足音も拍手もしのびやかに動作する。

かうして音と動作とを混然と一致させていくと、この簡單な遊びも興味が津々としてつきないものになつてくる。

取扱上の注意

一、相手をかへて行はせること

一、場所を廣く用ひて行はせること

幼兒の科學指導の理論と實際

戰時下の觀察部について

東京都立武藏高等女學校　有元石太郎

私はこの十月、東京都教育局主催、東京都保姆講習會に於て圖らずも五日間にわたつて「立地に於ける幼兒科學教育の理論と實際」といふ題目の下に平素抱いてゐる考への一端をお話し申上げる機會を得たのであります。この際の保姆の方々の御熱心さに感激しました私は、これから數回、その講演の內容に多少の修正を加へてお報ひしたいと思ふのであります。

お國のために

大東亞戰の相貌は深刻苛烈で、現下日本の事態の變化には誠に重大なものがあります。學徒は學園から直ちに戰場へ出陣しつゝあり、國民學校からは直ちに少年航空兵として、もうすでにお國のために血涙あげて活動をつゞけてゐる者さへあります。銃後の總べての男子は四十歲迄は待機の姿でお召しを待つてゐます。この世界史の大變化の運命的時機に際會した吾々は如何にあるべきでありませうか。保姆の方々としては日常どういふ教育をするのが最も正しい行き方でありませうか、それは外ありません。道は一つであります。一日も早く戰時教育の透徹であります。總べては戰ひに勝つためにといふ目標に向はなければなりません。決して〳〵教育もこの例外に晏如たることを許されません。若しも保姆の方々に、幼兒の教育だけは特別のものであるなどの考へがあつたとすれば、すつかり淸算しなければなりません。これ程の大暴風雨が園兒の樂園にも呵責なく吹き荒れずにゐる筈がありません。しからばどう考へどう致すべきでありませうか。

近代戰と科學

近代戰は廣義の新兵器戰であります。ロンドンが獨の空爆から今だに健在なのは、今次大戰に出現した科學兵器の花形電波方向探知機によるものといはれてゐます。南太平洋の方面に於ける日本機の損害がさみに昨今その數を增したのもこの新兵器の使用によると新聞は報じてゐます。科學の進步は日に日に新であり、戰爭は科學を急速に進步させることは過去の歷史の證明を待つまでもありません。一日の科學のおくれは悔を千載に殘すこと

になります。

この兵器科學の向上の根源をなすものは決して兵器科學研究專門家だけの貢獻ではありません。先頃の新聞紙上に無名の一青年が機關銃を改良工夫した重要なる發明の記事がありましたやうに、一般國民の科學水準向上に待つこゝが極めて多いのであります。一方戰場にありて科學兵器を使用する兵士の科學水準の高下は忽ちその使用能率に影響を來し、場合によつては切角の日本の優透兵器も使用不馴れのため故障續出、能率低下を來し戰果に重大蹉跌を來すこゝがあるでありませう。このやうに考へますと、ごうしても現代戰に勝つには國民の科學水準の高度發展といふこゝが大切になつて來ます。

「でもそれは幼兒の科學教育とは餘りに時間的にも關係が遠すぎはしないか」と申されるかも知れません。それは大きい間違ひと思ひます。今日の大人や夫々の專門家は面目にかけてもやります。吾々の考へるのはその次に來るものであり、もつと廣く全體的の立場から考へなければなりません。假りに保姆の方々の御努力により幼兒の科學が長足の進歩をしたとします。これは母の科學水準の上昇を示すことになり、母の科學水準の發展はとりもなほさず生活の科學化を意味し、生活の科學化は一般國民の科學への關心と向上を示すものであります。この横の關係のみでなく、縱の關係を見ましても、かの滿洲事變直後今日の如く科學教育に努力をしてゐましたならば、その當時の子供は今日第一戰に立つてゐますから、あのアッツ島玉碎ももつと違つた形で表れただらうと殘念でなりません。今からでも決しておそくないのでありますから、總べての教育者が一層この點に努力をするならば、日本の國力を一層科學的に强大なものにするでありませう。かく考へて私はこゝに一般國民科學向上に保姆の方々の幼兒科學教育のもつ重大な役割を强調したいのであります。

子供の疑問

子供はあらゆるものに疑問を持ちます。生れ來て、彼等の見るもの聞くもの總べてが驚きであり不思議であります。

生れて初めて物心がつき、さてよくあたりを見れば自分の周圍に父親と母親があります。これも不思議でありませう。なぜ父親は男であり母親は女であるかにも疑問を感ずるのであります。父親の胸を探しても乳が見つからないことも、母親だけが赤ちやんを產むことも、不思議であり、人に手があり毛が生えてゐることも、夜眠るわけも大きい疑問になるのであります。

夜月が沖天にかゝつてゐるのも、雨が降ることも、雪の色が白くて、火の色が赤いのも、猿のお尻が赤くて、コンニャクがぶる〳〵震えるのも、犬がワン〳〵と鳴き猫がニ

ャンと鳴くのも彼等にとつては大きい問題なのであります。このやうに幼兒の疑問は吾々の思ひつかない天馬空を駈ける樣な自由奔放なものであります。では幼兒の疑問は非科學的かといひますに、決してさうばかりだとはいへません。主客未分化狀態にありながらも彼等にとつて科學的の答を要求してゐるのであります。しかもその質問は吾々の答へられないやうな尊い面白いものが多いのであります。この疑問を輕視してはいけないのであります。これこそ科學の芽であり國家の寶であります。こゝからこそ大東亞建設、米英擊滅の祕術が生れるのであります。

それはなぜかと申しますに、今一度前記子供の疑問を再檢討してみて頂きたいのであります。この問ひに科學的に滿足な答の出來る人が何人ありませうか專門の學者でさへ答へられない問ひが多いのであります。從つてこれ等の疑問は學者の好個の研究題目であり、今尙研究中のものさへあるのであります。

人間に男と女の別のある疑問は染色體の研究へ進展し、夜眠る事の疑問は腦神經の研究及び週期性への研究に發展し、何れも今尙未解決であり不明の點が多いのであります。これ等の貴重な幼兒の疑問に對して、保姆の方々が假りに「それは人間に男と女があるやう神樣がおつくりになつたの」のやうな決定的な指導をいたしましたとすればこれでよいのでせうか、又は惡いのでせうか。

若し保姆の方々のうちに、幼兒の疑問は何等かの形で解決をつけてやらなければならないといふ考へがあつたとするならば、これは恐ろしいことであります。國家のためによくないことであります。これもすつかり淸算しなければなりません。若しも保姆の方々がすぐ何等かの形で子供に敎へるやうにしてゐるとき子供は「あゝさうかわかつた」といふやうに受け取り、この尊い疑問が更に發展して學者專門家などの研究題目になる位のところまで行かないのであります。現在の大人の方々のやうに、この世の中に男子と女子とがあるのはあたりまえの樣に考へ一向不思議にも思はないといふやうな、科學知識注入による疑問の免疫症、不感症になり、男女があるからあるのだといふやうな非科學的錯覺狀態に陷り平然としてゐますが、この大東亞を脊負ふ第二の國民には決してこのやうな科學の不感症にしてはいけないと思ひます。幼兒の科學心を殺すことなくこれを助長すれば、幼兒は將來皆大科學者になる素質があるのでありますから、皇國日本の科學發展に保姆のもつ役割の重大にして、その使命の尊いことに思ひをいたされて、この世界史轉換の時機に際會せられた生甲斐を感じられ、幼兒の科學指導に一層の御努力を心から期待してゐるのであります。然らば如何に取扱へばよいのでせうか、それは項を改めて私の考へを申述べてみたいと思ひます。

觀察遊び二つ三つ

——保育日誌の中から——

附屬幼稚園　清水光子

「ゐのこづち」

「先生、こんなにくつつけたの」と言つてお山へ行つてゐた兵隊さん達が四五人駈つて來た。みると前掛もズボンも一ぱいにゐのこづちがついてる。「やあ、蟲だ、蟲だ」、といつてゐる子どももある。「蟲かしら、でも動かないぢやないの」「これこの草についてたんだよ」ともう種子のすつかりとれたゐのこづちを五六本手にして得意さうな一人がある。「さうね、この草の、種子なのよ。よくくつつくでせう。でもどうしてくつつくのかしら、どれどれ」と言ひ乍ら前掛にくつついてゐた實を一つとつてよくみる。ひげが鉤のやうになつてゐるのをそばの子どもにみせる。「よくみえないや」と言ふ子ども、「ぢや先生がいゝものもつて來ますから」と蟲眼鏡をもつて來た。「手のひらにのせた二三粒の實をみせる」「大きく見えるでせう、曲つたひげみたいなもの、あれでくつつくのね」「僕にも」「私にも」といふわけで列になつて順々に、人の前に立つて明るさをさへぎらないやうに氣をつけてみることにした。そして一通り見終つたころ、「ショクブツノチエ」といふ繪本をもつて來て見せた。何の氣なしに見てゐた繪がこゝではつきりした樣な子ども達の面持であつた。

「どんぐり」

どんぐり拾ひに本校の庭に行つた。私は五つ、僕は七つと數へ乍ら拾つて大ていもう落ちてゐないやうなのになほもさがす。すると土に半分埋つて芽の出てゐるのをみつけた。

「あ、これ芽が出てる」と驚いた樣な聲をあげてみせに來る。「どんぐりの芽？」「どんぐりの木になるの？」ときく。「えゝ、きつとどんぐりの木になるのでせうね。大事にもつて歸つて土にうめておきませう」。お家でするといふその子のために、少し出た小さい白い幼根を折らないやうに紙につゝんだ。包み乍ら實が斯うして土におちてかたいかわを破つて根を出して大きくなるのを話した。おかめどんぐりまぜて十位づつ拾つたどんぐりの形のいゝので幼稚園に歸つてからコマを作つた。ひごをさしてまわしてみる。ひごのさし方をまつすぐに、長すぎないやうに、よくまはるやうに自分自分で工夫して、そして廻しつこをして遊んだ。

「煙突」

本校の庭に遊びにゆく時、色々數限りなくども言へる程觀察材料があるのだけれど、これもその面白い一つである。まづその高さ、「高いねえ」「天までとどきさうだね」「天までなんかないわね先生」「さあ、あなたのせいをいくつつなげた位あるかし

ら」そこで煙突のコンクリートのつなぎめが殆ど等間隔にある事を見つけ、つなぎめが二十八あり、その間一つが○ちやんの背位だからちやうど二十九人つなげた位といふことを先生が數へて話す。この間に煙突が動いてゐると言ふ子どもがある。「本當にさう見えるのね」と見てゐる中結局雲が動いてゐるのだといふ事が判つて來た。「運動の相對性」と先生は心の中で思ふ。一しきり雲をみてあの雲は何みたい、お魚のやう、犬のやう、など可愛いゝ想像が空を馳けまはる。

「はかり」

八百屋ごつこをして秤を作つてみた。ごく簡單なさをばかりである。割箸のわつたのかどを取つて桿にし古葉書でつくつたお皿をつるし持つ所をつけ、粘土で分銅をつくる。これをつくる前、藥を測る小さい桿秤があつたのでそれをまづよくみせた、次に大きい桿秤をもつて來て實際に測つてみた。○ちやんのおべんたう。これは分銅を一寸動しただけて測れた。重いものを測つてみませうといふことになつておへやの中を見まわす。「重いもの、何がいゝでせう」、と皆で考へたら犬の石製の置物があつた。それを測つてみたら一貫目近くあつた。測り乍ら「こゝを持つて、釣合ふやうにする。そこのすぢをみて何匁つてよむのです」と話す。平均のとれることを釣合ひといふ言葉を使ふことにした。そこで銘々がこしらへて支點の位置の取方、はじめの目盛り(數はかゝずすぢだけ)の取方を何ものせないで釣合ふ所だといふことをやつてみせて、自分できめさせる。斯うして秤が出來ると八百屋さんのお店は俄に賑やかになつた。そしてトマト二つで一貫目百圓などいふ途方もない數が出て來る。それはよく實際のもので說明して直させるやうにした。たゞ紙粘土で作つた野菜は輕いので手重みの感じて實際の目方を大體知ることには都合が惡かつた。そこで百匁とは百瓦とは大體この位の重みの感じといふことも何かの機會にしてみやうと思つてゐた。幼兒體力檢査の中の投擲ボールは百五十瓦なのでそれをまづ引合ひに出してみた。けれどこの年齢の子ども達にはまだ抽象數の觀念がないので數よりもたゞこの大きさのこんなたちのものならこの位の重み、といふことを經驗するだけでよいのではないかと思ふ。

「おべんたう箱」

「ごちさうさまー」「あら、もうすんだの、早いなあ」「殘したんぢやないかい」「殘すものか、ホラね」と開けてみる。「ほんとだ」「でも○さんのは小さいのですもの、早いわけよ」といふ抗議が出る。そこでおべんたう箱の入り工合を、(大きさ)ためしてみませうといふ事になつた。おべんたうのすんだ人のを、四角のニュームのやこばん形アルマイト、塗りのなど形、大きさ種々のをならべて丁度デシ立の桝があつたのでそれに水を入れておべんたう箱にうつし、これはいくつ入つた、これは三つと半分、これは四つと一寸といふ樣に測つてみた。斯うすると小さくみえてせの高いのが存外多く入つたりする。大人でも仲々見當がつかない事を知つた。小さい事であるけれどやつてみるとわかるといふことがわかつて、子ども達も斯うして測つてみたりする事を大變喜んだ。

戰爭に取材せるお話について

附屬幼稚園談話研究部員

支那事變の初め頃から、紀元二千六百年の頃にかけて、日本の童話は一大轉換をし始めた。それは、戰爭を契機として高唱せられた「古典への復歸」の餘波が幼兒童話界にも及んだからであつた。卽ち、古事記、日本書紀を主體とする、所謂「神樣のお話」が幼兒童話の中心となり、從來、可成りの位置を占めてゐた泰西童話は遙かに後退させられたのであつた。

「神樣のお話」は童話研究の專門家により、又幼兒教育の實際家により、或ひは又家庭にある母により、絕大なる關心を持たれ、熱心なる研究が積まれた。そして、それは一先づ或る程度の完成をみ、其の成果は非常な勢ひで幼兒の間に滲透した。

軈て、支那事變は愈〻擴大し、世界は動亂し、遂に我が國に於ては、大東亞戰爭の勃發をみたのである。此の間にあつて、文學界に於ては、戰爭文學に關する論議が盛んに行はれ、作家の從軍がみられ、一先づ現地報告的文學が隆盛をなしたのであつた。

我が童話界に於ても、戰爭中に於ける皇軍勇士の强さ、やさしさ、勇ましさ、が語られ、銃後の美談が傳へられ共榮圈內の傳說が新に加はり來つた。併し、童話の本質が「夢をもつもの」といふ大事な部面を持つてゐる以上、直接戰鬪に取材した話の如き、非常に現實、非常に苛烈なるものはみられない。それでは戰鬪に關する話は、全然不可能で、たゞ報導的に戰果を知らせる文でよいであらうか。

私達は、新聞によつて知り、ラジオで聽き、映畫でみる以外に戰鬪といふものを知らない。私達の知つてゐると確信してゐる戰鬪の光景は、夫等體驗しない知識を私達の過去の經驗と想像とによつて、でつちあげたものに他ならない。つまり、私達は戰鬪を經驗しないものであつて、それを語るにふさはしくないものである。然も私達は夫にも抱らず、戰鬪の或る部面を幼兒に傳へたいと熱望する。それは、單へに、戰鬪を通じて日本に生を享けた喜びを銘記せしめたい、といふ一念があるからである。

「戰爭話」と呼稱してよいものかどうか、とにかく、或る戰鬪を通して、又は或る忠勇武烈なる人を通じて、皇軍のけだかさ、强さ、勇しさを感得せしめ、皇國に生を享けた喜びを彼等と共に頒け、次代を擔ふ彼等と共に力强く米英擊滅に邁進したい。

私達は此の見地から、少しづつ研究し來つたものである。そして或る時期に於て、幼稚園談話集第二輯に載せるべく支那事變に取材せるもの二三を用意したのであつた。併し用紙の都合で刊行の運びに至らず今日に及んでゐる。そこで今、其の一篇を此處に載せて、皆樣方の御指導を乞ふもの

であるが、既に相當の時日を閲してゐるので如何にも不適當な例である事を深く恥づる次第である。

こても強い西住戰車長

西住戰車長は西住小次郎といふお名まへです。お祖父さんがおなくなりになる時、まだ年の小さい小次郎に、

「お前は一生懸命勉强して立派な軍人になり天子樣に忠義をしなければなりませんぞ」とおつしやいました。その御言葉を小次郎は何時も〳〵忘れないでしつかりと胸の中にしまつてゐました。

小次郎は、近所の子ども達と戰爭ごつこをする時はいつも大將でしたが、この大將は、威張つたり亂暴をしたりする腕白な大將でなくて、おとなしく、親切で、人をいぢめたりしない大將なので、皆はおとなしか大將といひました。「おとないしか」といふのは小次郎の生れた熊本の言葉で「おとなしい」といふことです。或る日のこと、いつもの戰爭ごつこの時です。

「戰鬪開始!! うわ——」 パパーンパンパン。

「あゝ、やられた」小さな兵隊さんが倒れました。斥候兵が馳けて來て、小次郎大將の前で擧手の禮をして、

「大將に報告! 甲斐伍長が敵の捕虜になりました」。そして直ぐ又いそいでかけてゆきました。

「小次郎さん早く來てよう」といふ聲が聞えます。おとないしか大將は、「よし」といつて、鐵砲丸の樣に走り出しました。そして、敵がしつかりと守つてゐる間を、どし〳〵勢よく、くぐりぬけて、甲斐少年達を救ひ出しました。

小次郎は、此の樣に、ふだんはおとなしいが、いざとなると强く勇ましい子どもでした。

大きくなつて、陸軍士官學校を卒業して、立派な軍人さんになりました。支那事變で出征したのは中尉の時でした。雨降る樣に飛んで來る敵彈の中を勇敢に戰車から他の戰車へ乘りかへたり、クリークの中へ突き入つたり、勇ましい手柄をたてました。

さて五月十日です。西住中尉達の細見戰車隊は南京で新らしい命令の下るのを待つてゐました。そこへ徐州で戰つてゐる我軍を助けにゆく樣にといふ命令が下りました。皆は大よろこびです。

「いよ〳〵僕達の腕を振ふ時が來たぞ」

「お互にしつかりやらう」

「今度あふ時は靖國神社だ。あゝ腕がなる腕がなる」といつて、戰車に故障のないやうにと、もう一度よくしらべておきました。

「出發!」勇ましい戰車の行列が、廣い〳〵綠色の麥畑の中を、ゴーゴーと音をたてゝ、走り出しました。その一番の先頭が西住中尉の戰車です。地べたに伏せをして敵を擊つてゐる歩兵部隊の兵隊さん達が

「戰車、たのむぞおー」と手をふつて怒鳴りました。戰車隊は、兵隊さん達を追ひ越し〳〵、徐州へ〳〵と進んでゆきました。その戰車隊の進む上の空には、敵の樣子をさぐる皇軍の偵察機が飛んでゐて、皆さんがよく繪におかきになるやうな勇ましい戰さでした。大砲の彈丸がすごい勢ひで破裂

し、機關銃の音は耳がやぶれるかとおもふ樣にひびいてゐます。

タ、タ、タツ、パン／／／／

雨の樣に彈はふつてきます。

戰車隊の一番先頭の西住戰車には敵彈が一番多くどん／／あたります。けれども西住戰車はそんなことをちつとも恐れず、ずんずん進んでゆきます。

「さあもう一息だ、がんばらう」

さうおもつた途端、戰車は急にダダダダーと音を立てゝ停まつてしまひました。

「どうした」。

「こりやいけない、クリークだ」

「なに！、クリーク」

戰車の窓から外をながめると前は水の青黑い深さうなクリークです。

「こまつた、どうしよう」

と皆が思つてゐると、

西住中尉はパーツと天蓋をはねのけて、ひとりで戰車からとびおりました。

「中尉殿、あぶない」

皆がさういふ聲も聽かず敵彈が雨の樣に來る中をどん／／クリークの方に走つてゆきました。中尉はたゞ、「このクリークをわたつて進んでゆけば、敵はきつと逃げるにちがひない、どうしても、通れる所をさがさなければならない」といふことしか考へてゐないのでした。ヒューツ　ヒューツ

西住中尉の戰車帽を敵彈がかすつてゆきました。それでも一生懸命、クリークを右の方へ右の方へと走つてゆきました。けれども通れさうなところがありません。今度は左の方へ／／と走りました。敵彈は相變らず中尉の耳や頭のそばをヒューツヒューツといつてとんでゆきます。

かまはず、左の方へ走つてゆきました。

「あゝ、あそこだ、みつかつたぞ」中尉は喜んでクリークの岸を下りて指揮をする旗の棒で深さをはかりました。上の方はどろ／／した泥でしたが底の方は固い砂利でした。

「よーしやらう」。

中尉は、皆に早く知らせやうと、勇んでクリークを馳けあがりました。

一歩、二歩、三歩、四歩、五歩、……十六歩、かけ出したその時です。敵の彈丸が西住中尉にあたりました。

「あゝ隊長が、やられた

「中尉殿、しつかりして下さい」

「大丈夫だ、心配するな。クリークの向ふに敵がゐるから氣をつけろ。左の方から早く攻撃するんだ」。

傷も忘れて、大きな聲で呼びました。西住中尉は自分のことなんか構はず、たゞ戰車長として、しなければならぬことだけ考へてゐたのです。戰人として、天皇陛下のために忠義をつくすことしか考へてゐなかつたのです。

中尉はたう／／名譽の戰死をなされました。

この勇ましい働きをなされた西住中尉は、戰の中で大尉になられ、後に立派な金鵄勳章をおいたゞきになりました。軍神西住大尉といつていつまでも、いくさの神樣としてあがめられるのです。

参觀記

東京都戰時託兒所を訪ねて

附屬幼稚園　菊池ふじの

東京都氷川神社戰時託兒所―目黒區衾町五五九　東横線府立高校前下車

氷川神社の山門をくぐると先づ目についたのが、墨根鮮やかに立てられてある東京都氷川神社戰時託兒所の看板である。

幽邃な神社の境内右手の長さ略〻六間、横二間半の總二階の建物、これがこの度の戰時託兒所に當てられた建物である。以前は氏子の集會等に使用されてゐたといふ。全部疊敷、床の高い建物である。と云つても周圍には木のらんかんが廻らされてゐて、幼兒を遊ばせるのに少しも危ふげはない。二階はやはりこゝの宗教に關係のある宗教學校の學生の使用に供してゐて、戰時託兒所はこの階下、三間ぶつ通しの大廣間を借用してゐるのである。

この地區は、今日始めて訪れたこの他所者にもそれと氣付き得る程の住宅地區。それ故に託兒の集り工合は如何かと、日向で數人の幼兒の相手をして居られた保姆さんに伺つて見ると、申込みはかなり多數あるのださうだが、現在來てゐるのがこの數人といふことである。戰時託兒所の事がよく分らないので、出さうか出すまいかと一寸日和見をしてゐるかたちでもあらうか？出征家族のこのお子さん――お母さんは今度から何か働き度いと云つて居られるのです。こちらは魚屋さんの御子さんの兄弟、これは下駄屋さんのお子さんと言つた工合に、皆今度の戰時託兒所の眼目とするところの「一人の有閑者をも無からしめる」といふところにぴつたりあてはまる。こゝへ、方面館へ事務の打ち合せに出向かれたといふ主任保姆の村田先生が歸つていらした。村田先生は、今まで芝の方面館で、この事業の經驗を積まれていらした方。今度こゝへ主任保姆として御轉任になられたのださうだ。

「地元の婦人會や方面館の方達の肝煎りで、回覽板を廻して下さつたら、申込みが又大變增えてゐました」。とのお話。「まだこの通り、何も整ひませんで」と謙遜せられるが、二人の有資格保姆、二人の奉仕保姆、それに保健婦一、醫師一、小使一と人員が揃つたら、この建物と莊嚴幽邃なこの境内、思つて見てこゝの託兒所の活躍が想像出來る。保育料・保育時間・給食・おやつなど、苅宿課長のお話の通り。この大きな建物と別に、小じんまりしたも一つの建物がある。やがてはこゝが乳兒室になる由。日當りのいゝ別棟で、乳兒室にはもつてこいのいゝ建物である。話の順序が前後してお申譯ないことであるが、こゝの戰時託兒所の所長さんは、この神社の神主樣で、今日は御不在であつた。所長さんの御意見では、子どもは幼い時から、敬神崇祖の念を養はなければいけない。これからは朝な朝なあの拜殿に合掌させ額づかせて、この精神を幼い時から培ふことにしようと申されておいでとの事。

この戰時託兒所の存在と職能とが地元の方達に普及浸透されて、この全機能が充分發揮せられる日の一日も早からんことを祈つて止まない。

品川戰時託兒所

品川區南品川五ノ二〇三、省線大井町驛下車方面館がそのまゝ戰時託兒所になつたといふ標本として、こゝを拜見する。

お玄關に着いた瞬間、感じた。新しく始めると云ふのではなく、もうどつしりした根柢の上でお仕事をして居られるのだなといふ感じ。事務所に入り、方面委員長、館長、保姆長その他の事務の方達が大勢いらつしやるのを拜見しては愈々この感を深くしたのであつた。そして、いろ〳〵の完備した印刷物——受託兒保護者職業別・受託兒給食獻立表・乳兒保育豫定案・乳兒室の一日、幼兒一日の豫定、保育案——と、實に盡されて餘す所なき多くの印刷物を拜見するに及んでは、一層、社會事業としてのがつちりした存在であることを思はせられたのであつた。そしてこの乳幼兒の託兒といふお仕事は、こゝの方面館の數多い事業の一つのお仕事に過ぎないことが分かつた。診療室なども揃つたものであつた。

乳兒は、東京都の規定で十人。ベット數が十個と限られてゐるので。幼兒は一〇八名在籍。毎日申込みが殖えて來て收容しきれないので、二十日から開所の、程遠からぬ品川寺の戰時託兒所の方へ廻す積りとの齋藤保姆長のお話であつた。

乳兒は保健婦の方が主に受持つて居られ、お米は各自持參せしめられて、晝食には御飯とお菜とを給して居られる。幼兒の方は、御飯は各自持參し、お菜をこゝで給して居られる。お八つも與へて居られる。こゝで事業を始められてから滿四ヶ年も經過して居られるので、お八つにしろ醫藥にしろ、燃料にせよ、しつかりとした配給割當てを受けて居られるので、この仕事に誠に磐石の感じを與へられるのであつた。併し、お八つの配給といふとすぐ、お菓子を聯想するのであるが、一ヶ月の統計表を見ると、月三十回の中、駄菓子、餡、煎餅、などの所謂從來のお八つなるものは十二回に過ぎず、馬鈴薯、竹輪、里芋、ほうれん草などの配給を受けしものを調理鹽梅してお八つとして與へられてゐるのであつた。幼兒はかうして時々變つたお八つをこの上もなく喜んで頂くとのことである。この他、印刷物に現はれてゐる貴重なる實踐、例へば、保育案にせよ、一日の豫定案、躾要項などにせよ、一々御紹介致し度いのであるが、紙面の都合で割愛しなければならないのを遺憾とする。

尙ほ、こゝでは幼兒防空訓練が行屆いてゐるといふことをかねて聞いてゐたので、齋藤保姆長に伺つて見た。幼兒は、一朝事ある時には皆、乳兒室の鐵製ベット(十個備付)の下に待避する。硝子窓に面した方には皆毛布を掛けて、硝子の破片の散亂を防ぐ、各幼兒は防空帽子を持參、椅子に敷いてゐる。警戒警報時にはその紐を解いておく。幼兒は各〻自分で被る。目、耳をおほひ、伏せの姿勢をとらせる稽古を時々して居られるといふ。

最後に、方面館が戰時託兒所になつて變つた所は?と伺つた。一、受託の範圍が廣くなつたこと(今まではカード階級の人のみを受託する規定であつた)二、保姆の心構へが違つて來たこと三、保育料、保育時間等が多少異つて來た。こと等であつた。

尙ほ、こゝのみなでく今度の戰時託兒所全般に就てゞあるが、虛弱兒には夏季等轉住保育を試みるといふ事であるが、こゝの方面館では、以前からこの轉住保育を試み、子供の體育上に好結果を齎してゐて多くの人から感謝を受けて居られるといふ事である。

かくして、現實に目に見えて人の役に立つてゐるお仕事に從事して居られる方々の心の中なる滿足感に或る羨望を感じつゝ辭したのであつた。

この頃作つた童話、童謡

吉井さんは詩情豊かな保姆さんです。時折かうして自作のものを寄せられます。皆さんもどうか吉井さんのやうに作られ、こちらへ送つて下さい。編輯係り

群馬師範女子部附屬幼稚園保姆　吉井正子

童話

太郎と手紙

「太郎ちゃん大きく成つたら何になるの？」太郎はさつきから大好きだつたおとなりの小父さんがよくお聞きに成つた事を想ひ出して居りました。小父さんは太郎の家へいらつしやる度にきまつて頭を撫でゝ下さいました。

「僕ね、飛行機のり」太郎は小父さんを見上げながらかう答へたものでした。

何時も何時もやさしかつた小父さん、面白いお話を聞かせてくれた小父さん、太郎にはどうしても小父さんの事が忘れられませんでした。

その小父さんに召集令が來てお別れしたのはついこの間の樣に思へますのに最早年も經つてしまひました。今は南の國で勇ましい進軍をしてゐらつしやることの他、太郎には小父さんの事は一寸もわからなくなつてしまひました。小父さんが驛をお立ちになる時太郎はだれよりも早く驛までかけて行きました。

自分で作つた旗をふりながら「小父さーん」と飛び入んだ時澤山の日の丸の旗にまかれて立つて居た小父さんは「おや太郎ちやん」とびつくりした樣に太郎をぢつと御覽になりました。「小父さん、戰爭に行くんだつてね、がんばつて米英の奴やつゝけて」太郎は大聲で言つたつもりでしたが、何だか體が硬くなり聲がのどにつかへて後の方は大人の人達の萬歳で消されてしまひました。太郎はたゞ力一ぱい自分の旗を高く上げながら小父さんを見失ふまいとしてゐました。

この日の小父さんは何時見た時よりもどんな時よりも勇ましく強さうに見へました。

「日本は勝つぞ、こんな強い小父さんが居るもの」太郎はこの時固く心に思ひました。

あの日から太郎は小父さんの事を一日も忘れた事が有りません。

太郎はふと高いお空を見上げました。今日は何て綺麗な日本晴でせう。櫻のお花もゆれて居ます。

「小父さーん」太郎は南の空に向つてそつとよんで見ました。

「おーい太郎ちやん」何だか小父さんの大きな太い聲が聞えて來る樣な氣が致しました。

このお空の續く所の何處かで小父さんが戰つて居られる。さう思ふと急に體中に力が入つて來ました。

小父さんもきつと戰ひの間にはこのお空を見て居られるにちがひない。太郎はさう決めて考へて居る中に、ふと、或ることを思ひつきました。太郎は大急ぎでお家の中にかけ入むと、机の前に座りました。クレ

ヨンと紙とを太郎は夢中で机の上にそろへました。

そして、一番先に、先づ青いお空を書き次に櫻を書きました。それからその下にお空を見てゐる自分を書き足しました。

太郎はにこ〳〵しながら裏に今度はかう書いたのです。

『ヲヂサン　オゲンキデスカ　ボクイマオソラミテタラヲヂサンノコトトテモオモヒダシマシタ　ヲヂサンシングンハイサマシイデセウネ　ボクモイマニオホキクナツタラ　ペイエイヲヤツツケニユクヨ　ボクワ　センシヤガスキデス　ボクトキドキコレカラ　オエカキシマス　ソシテヲヂサンニオクリマス　マツテ、クダサイ　タロウ』

太郎はこれだけ書くとほつとして紙を四つに折りました。太郎はどうして早く手紙を出さなかつたのかと思ひました。太郎は時々これからはかうしてお手紙を出さうと思ひました。小父さんもどんなにおよろこびになるでせう。

「萬歲！」太郎は大聲でさけぶとおとなりへかけて行きました。慰問袋の中に入れていたとくのです。

——○——○——○——

第一番目の太郎のお手紙は今お船にのつて居ることでせう。海を越え波にゆられ戰地の小父さんの所につく日はもう直でせう。

太郎はお手紙をかくことが大好きになりました。どうしてつて、太郎は手紙を書いて居ると、何時も何時も大好きな小父さんとお話してゐる樣な氣がするからです。

童謠

ヂャングルのてつぺん

お空が近い
ジャングルのてつぺん
兩手を上げて高い高い
それ！
落下傘の樣にとび下りろ
一・二・三
風の樣に早く飛び降りろ
どの子もどの子も
ころけては又登る
ジャングルのてつぺん
青いお空だ！　日本晴だ！

繪

新しいクレヨンが
頭をそろへて箱の中
赤で赤いお屋根を
綠でやさしい草を
茶色で大きな木を
青で廣いお空を
ほーら出來上り
兵隊さんに送る繪が
新しいクレヨンでかけました

ほゝづき

ほゝづき　ほゝづき
おばあちやん　ほゝづきおくれ
ほれおばあちやんの　ふところから
出るよ　出るよ
赤い赤いほゝづき
いくつ出た
十五出た
十五で何しよう
東京の子にわけてやろ
あとは
姉樣（アネサマ）人形をつくろ

生徒募集

本科生　八十名
託兒科生　若干名
研究科生　若干名

願書受付三月二十日迄規則書は四錢切手封入の上申込まれよ。

創立以來三十年。
大正五年東京市麴町區に創立。
昭和二年武藏野の中なる現在地に新築、附近に森あり、野あり、川ありて四時自然の恩惠を受け、本校の特色とする自然觀察、博物採集、圖畫寫生、自然物應用の手工等材料豐富なり。

玉成保姆養成所

所長　有院良
（ソフアヤ・アラベラ・アルウ井ン）

東京市杉並區西高井戸一丁目一三三
省線　西荻窪下車直南約五丁